

きっかけさえあれば

山形県立左沢高等学校 三年 後藤 友里

高校三年生の農業の授業の「草花」という科目で、楯岡特別支援学校大江校に行きました。そこで、障害者の方と一緒に花植えをしました。支援学校の生徒一人一人に左沢高校生が付き一緒に活動するという内容でした。

支援学校の生徒は、高校一年生、二年生、三年生と学年ごとに分かれていました。私は、高校一年生チームでした。最初にチームに分かれて自己紹介をし、交流をしました。私は、支援学校に行くまでどうやって話したら良いのか、まず話をしっかりと聞いて行動してくれるのか不安でした。また、花植えをしっかりと教えられるか、一緒に活動をしてくれるか不安でした。私は、男の子とペアになりました。初めに、花植えのやり方を教えました。次は一緒に一つの花壇に花を植えました。花植えのやり方をしっかりと覚えて支援学校の友人と楽しそうに活動してくれました。それから彼は、私の不安をかき消すように活動をし、質問にはしっかりと返事を返してくれてとても嬉しかったです。しかし、それから花植えのやり方を教えたところで会話は終わってしまいました。活動中に支援学校の先生が私達ペアに話しかけてくれました。そこでようやく彼と他の話をして楽しく話すことができました。それから、また黙々と花植えをしていました。チームの他のペアが、仲良く楽しそうに話しているのを隣で見ながら彼と花植えをしていました。私ももついろいろなことを話したかったです。ですが、勇気が無くて話かけられずにいました。何を話して良いのか分からなくなってきたとき、私は花をきっかけに話をしようと思いき、勇気を出して質問をしました。すると、しっかりと質問に答えてくれて、彼の好きな色や好きなことを知ることができ、私はとても嬉

しかつたです。それから、ペア以外の人にも積極的に自分から話しかけ、たくさん話をし、活動することができました。

この農業の授業の「草花」を通して、私は話すきっかけを作り、勇気を出して会話することができたように思います。支援学校に行くまでは、話をしっかり聞いてくれるか、また一緒に活動してくれるか不安でした。しかし、授業を通して不安もなくなり、もっと話をしたいという新しい気持ちが生えました。今までの私は、障害者という肩書があったら優しくしないといけない、またゆっくり話さないといけないなどと思っていました。しかし、今回の授業で障害者といっても私達と全く違うことがないということが分かりました。また話が続かなかったことや、関わるきっかけを作る勇気を持てなかったことは、相手が障害のある人であることと何の関係もありません。これから就職して初めて接する同僚の方やお客さんが相手になったときに、初めは勇気が出ず、自分から話しかけにいけないこともあるかと思えます。しかし、今回の支援学校での活動を通してきっかけを作り、話しかける勇気を持つことができました。身につけた勇気をこれからの学校生活や就職先で発揮していきたいです。